

令和七年度 国際学級帰国生入学試験問題

令和六年十二月一日 実施

国 語 （三十分）

「注 意」

- 一、試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 二、問題冊子は５ページあります。試験開始後すぐに確かめてください。
- 三、解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 四、問題冊子の表紙および解答用紙に受験番号（算用数字）と氏名をはっきり書いてください。
- 五、字数制限のある場合、句読点・カッコなどはすべて字数に数えます。
- 六、試験終了後、解答用紙だけでなく問題冊子も回収します。
- 七、試験中は、机の上から物を落としたり、気分が悪くなったり、何か用ができな時は、手をあげて監督かんとくの先生に知らせてください。

受験番号

氏名

東京女学館中学校

一 次の短文中のカタカナの語を漢字に直しなさい。

① ケワ¹しい山に登る。

② テンコウ²に恵まれる。

③ 新しいシヨウバイ³を始める。

④ 名前をツラ⁴ねる。

⑤ シヨウギ⁵を使って線を引く。

⑥ 田舎^{いなか}にイジュウ⁶する。

⑦ サドウ⁷の稽古^{けいこ}をする。

⑧ 海外へシュツチヨウ⁸する。

⑨ 台風がセツキン⁹する。

⑩ シヨウミ¹⁰期限^{かぎん}を確認する。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

日本人を食事に誘って「何を食べましょうか」と聞くと、①「何でもいいです」という答えが返ってくる。日本人とつき合いはじめた外国人は、これでわけが分からなくなることが多い。

少し慣れてくると、「ああ、これは、無意識に自分が受け身の側に立とうとする日本人特有の態度のあらわれなのだ」と、わかってくる。それにしても、②どうして日本人はこうまで選択権を自分で持とうとしないのだろう——そう思っている人は多いはずだ。

こんな場合、相手が「何でもいいです」と言う以上、こちらが勝手に決めるしかない、適当にやっている人が多いと思う。まあ、好き嫌いの少ない日本人のこと、とくに問題となることは少ない。でも、もしかすると、相手が A 食べたくないものを食べさせているのかもしれないと思うと、こちらとしても気分がよくない。そこで、B 相手の嫌いなものを食べることになるのを避ける方法はないものか。

たとえば、③こんな聞き方もある。

「何を食べましょうか」

「何でもいいです」

「そうですね、今日は、あまり脂っぽいものより、なんかさっぱりしたものが食べたい気分ですね。それに私は、C 辛いものが弱いんです。あとは、だいたいのは食べますから、何か決めていただけますか？」

なぜ多くの日本人が「何でもいいです」と答えるのかというと、「〇〇を食べたいと言って、もしそれが相手の食べたくないものだった

「悪いな」という思いの方が、どうしても意識の中で先行するからなのだ。ようするに、Xのである。だから、こちらが食べたくないものを言っておいて、あとはまかせるとすれば、気分すっきり、積極的にリードしてくれるのが日本人だ。

ともかくも、日本人は物事をはっきり言わず、曖昧あいまいな表現をすることが多い。この日本人の曖昧性にぶつかって「理解」を放棄ほうきしてしまふと、「日本人は自己主張がない」とか、「どっちつかずの風見鶏」かすみどり「タテマエばかりでホンネを言わない嘘うそつき人間」「表裏のある二重人格者」などと考えることになってしまう。

私は、多くの外国人にとって、どうにもこのように見えてしまう日本人の真意を理解し、しかも上手に楽しく日本人とつき合っていくための重要なキーワードのひとつに「Y」を置いている。ことばや態度の面で、直接的な表現を嫌いまたは避け、間接的な表現を好みまたは積極的に選択しようとするところに、④日本人の大きな特徴とくちょうがある。そこには、それなりの歴史的・文化的な背景があるのだろうが、つき合い方ということでは、そこまで立ち入る必要はない。

「何でもいいです」という言い方も、自己主張がないからでも、D物事を曖昧にしようとしているからでもない。個人的な欲望を直接ぶつけることによって、相手に自分に対する違和いわや対立の感じが生じないように、したがって相違そういよりも一致いっちを捜さがし出してそこから関係をつくっていかうとする、そのための間接表現の一種だと理解することがよいと思う。「Y」というキーワードで日本人とのつき合い方を考えてみることに、それはまた、日本文化について考えてみることもつながってゆくはずである。

(呉善花 「新スカートの風 日韓Ⅱ合わせ鏡の世界」より)

※ 出題の都合上、本文の一部を省略したり変えたりした部分があります。

問一 文中の A 〜 D にあてはまる語として、もっとも適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。
ただし、同じ記号を繰り返し用いないこととします。

ア とくに イ せめて ウ かなり エ 単に オ 余り カ ついに

問二 ―線部①『何でもいいです』という答えが返ってくる』とありますが、日本人がこのように返答する理由を、筆者はどのように述べていますか。もっとも適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 無意識に自分が相手の側に立ち、相手に好きなものを食べさせたいと考えるため。

イ 自己主張を避け、タテマエよりもホンネを重要視する国民性があるため。

ウ 歴史的・文化的な背景から、直接的な表現を嫌い、間接的な表現を好むため。

エ 相手に違和や対立の感じが生じないように、一致を捜し出してそこから関係をつくっていくため。

問三 ―線部②「どうして日本人はこうまで選択権を自分で持とうとしないのだろう」とありますが、

(1) 「こうまで選択権を自分で持とうとしない」とほぼ同じ内容を表している語句を、文中から二十字以内でそのまま抜き出して答えなさい。

(2) この問いに対する筆者の答えを文中の言葉を用いて三十五字以内で答えなさい。

問四 ―線部③「こんな聞き方」とありますが、どのような聞き方ですか。「〜という聞き方」に続くように、文中から三十字以内でそのまま抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問五 文中の X にあてはまるものとして、もっとも適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア こちらが何を食べたいかを知りたい

イ 何でもいいからとにかくはやく食べたい

ウ 何でもいいからこちらに決めてほしい

エ こちらが何を食べたくないかを知りたい

問六 文中の Y には同じ言葉が入ります。あてはまる語としてもっとも適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 消極的 イ 間接的 ウ 受動的 エ 内向的

問七 ———線部④「日本人の大きな特徴」とありますが、日本人の特徴として誤っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 選択権を自分で持とうとしない イ 物事をはつきり言わず、曖昧な表現をすることが多い

ウ 相手の意見を何でも受け入れてしまう エ 間接的な表現を積極的に選択しようとする

問八 あなたが、人とのコミュニケーションで困ったり、戸惑ったりした経験について説明し、その経験から学んだことを一〇〇字以上、一二〇字以内で述べなさい。